

⑤7災63号 一般国道249号 道路災害復旧工事

受賞機関 石川県 中能登土木総合事務所

キーワード 早期復旧、SNSによる情報発信

全建賞審査委員会の評価ポイント

令和7年8月豪雨により道路全幅が崩落し通行不能となった国道249号の復旧に当たり、被災翌日には学識経験者や電気通信事業者等の関係機関との調整を開始し、24時間体制での施工により災害発生からわずか1か月で交通開放を実現するとともに、SNSを活用した工事進捗状況や迂回路情報の発信に取り組んだ点が評価された。

1. はじめに

令和7年8月12日早朝の豪雨により、国道249号の石川県七尾市中島町小牧地内において道路が崩落し、通行不能となった。

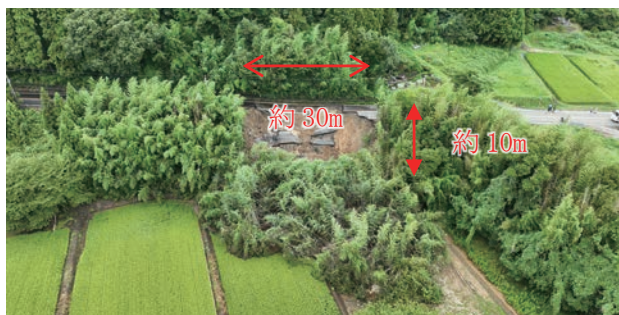
本路線は第2次緊急輸送道路に指定されており、令和6年能登半島地震においては、金沢と奥能登地域を直結する自動車専用道路「のと里山海道」が通行止めとなった際、奥能登地域へ通じる唯一の幹線道路として重要な役割を果たした。

また、今回の災害においても、奥能登地域の復旧・復興及び物流を支える極めて重要な路線であることから、早期の交通開放が求められた。

2. 事業の概要

被災規模は、延長約30m、高さ約10mにわたり、道路全幅が崩落するものであった。

被災翌日には、被災原因の把握及び早期復旧工法の検討のため、学識経験者との協議を行った。また、工事の支障となる電気通信設備について電気通信事業者と調整するとともに、国土交通省から投光器を借受けるなど、関係機関と連携して速やかに応急工事に着手した。



災害発生時

3. 事業の成果

早期に交通を確保するため、24時間体制で応急工事を進めた結果、災害発生から約1か月後の令和7年9月12日に交通開放を実現した。

これにより、地域間交通及び物流機能が早期に回復し、影響を最小限に抑えることができた。

加えて、工事の進捗や迂回路情報についてSNS（X等）を活用して発信したことで、道路利用者や地域住民への周知が図られ、不安の軽減と復旧工事への理解の促進につながった。



夜間の施工状況



SNSによる情報発信



交通開放状況

4. おわりに

令和6年能登半島地震からの復旧・復興に向け、多くの災害復旧工事が進められている中で発生した災害であったため、資材や人員の確保等、多くの課題があったが、迅速な初動対応と関係機関との連携により、短期間での交通開放を実現することができた。

また、SNSによる継続的な情報発信を実施したことで、利用者からねぎらいの言葉が寄せられ、復旧作業に従事する関係者にとって大きな励みとなった。

短期間での交通開放が実現できたのは、有識者、電気通信事業者、国土交通省、地域の方々、測量・地質調査・設計コンサルタント、そして24時間体制で復旧作業に従事された工事関係者等、復旧に携わっていただいた皆さまのご支援の賜物であり、深く感謝申し上げます。

賛助会員 ㈱国土開発センター